

波 紋

好かれる社員

相手の立場を尊重する人

規律、ルール、約束、時間を守る人

相手の話を聞こうとする態度の人

自慢しない人、謙虚な人

イヤな仕事もイヤな顔をしないで、する人

他人の悪口、カゲ口、ウワサ話をしない人

礼儀正しい人（相手の地位に関係なく）

感情的にならない人

明朗な人、ユーモアのある人

公私の別をわきまえた人

他人に迷惑をかけないよう気を使っている人

責任感の強い人、他人のせいにはしない人

困難にへたばらないうで努力する人

グチをこぼさない人

誤りを素直に認められる人

交友差左点

好かれる人

（モーリンマン）

「いい言葉が書いてある」と部長より見せてもらったのが上記の十五ヶ条です。仕入先のA君と五ヶ六人が集まって「ワイワイ」雑談した。

B君 俺は一つも当てはまる性格がないや。悪口は言うし、自慢するし、グチはこぼす、私もすぐ感情的になってしまふヨ。

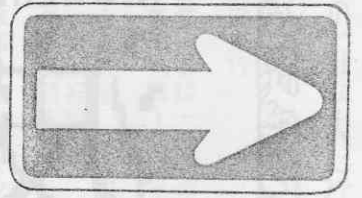
C君 私もすぐ感情的になってしまふヨ。

D君 相手の話を最後まで聞く耳を持たんな俺も。第一グチを聞くのは一番嫌いだ。

E君 三つ以上実行できる人はスバラシイ人だなぁー。

F君 「時間を守る」事と「公私」だけは守っている。私

は・・・など
私自身も「相手の立場を理解する事」がへたな悪い性格（思いやり欠除）の持主です。今後は心豊かな、広い人間になるよう努力します。モーリンの皆さん、奥さんは自分自身の性格、どう思いますか？



特別寄稿

(株) 太平産業

代表取締役

福井武夫

「波紋」を毎号お送り頂きありがとうございます。ございます。編集の皆さん方のご努力と、「フレッシュ森松」―挑戦する森松―自己革新を通じて企業の発展をめざしておられる姿に、先ずもって敬意を表します。錦三丁目の倉庫兼事務所、製図用シート

の件で初めてお伺いしたのが、昭和四十六年頃だったと思います。「何んとか売って頂きたい」正直そんな気持ちでした。以来十五年商品だけでなく、いろいろな情報を頂き乍ら、お陰様で今日まで拝見しました。が、本年は栄ある三十周年を迎えられ、又新社屋の建設計画等、当時をふりかえり、隔世の感がいたします。

情報の少ない飛驒の地で、「木」しか知らなかった我々が、今日何んとか、いろいろな材料を利用出来るのも、貴社との出会いが、そのきっかけとなりました。当社の第二の創業期とも言える時期に、巡り合った幸を、感謝しています。

急激な円高、行き先不透明ではありませんが、輝く明日を信じて「急がず、休まず」一歩一歩足元を固め乍ら前進したいと思っています。

いい取り引先として、又、ライバルとして、共存共栄の道を歩みたい、そう願っています。最後になりましたが、今度、社長の重責を担うひとになりました。もとより浅学非才の身ではありますが、社業発展の為、精一杯頑張ります。一層のご支援、ご指導を、心から御願ひ申し上げます。

木村英利

メーカー紹介

東永化成(株)

小川部長

当社の創業は、東京都葛飾区金町に昭和三十四年に始まり、二十六年を経過して現在に至っております。塩化ビニールの二次加工をカレンダー方式に依り各種の原反を作って業界に寄与しております。

当社の経営ポリシーは、誠実をモットーに運営し、従業員一同の一致協力体制は、もちろんの事、販売先及び仕入先の御協力に依り成り立っているものと深く感謝しております。尚、宣伝を兼ねて当社主力生産品種目は、下記の通りですので紙面を利用させていただきます。

- (一般軟質シート)
 - 一、文具用生地(学童用、事務用、バインダー用、手帳用)
 - 二、雑貨生生地(贈答用、宣伝用、袋物用、玩具用、ケース用)
 - 三、特殊生地(貼紙防止用、デスクマット)
- (一般硬質シート)
 - 一、真空成型用生地
 - 二、建材用生地
 - 三、軟質硬質貼り、SHロン、SHロン

(発泡シート) 各種目の内容不明な点は、当社宛一報いただければ、即説明に訪問させていただきます。最近の業界は、低成長飽食時代に入り小量多業種生産及び、価格競争が主体になってきている為、商品開発は、マーケットニーズを原点とし、エンドユーザーの意見を十分に聞いて生産する事が少なくなっている傾向にあります。新製品の開発を原点に戻り、試作製造には入りかと思ひますので、宜しく御協力の程御願ひします。森松機發行の波紋を愛読するたびに、貴社の従業員育成と社内団結の精神が感じられます。今後とも未永く、御取引の程宜しく御願ひします。

男女雇用

機云均等法

森ちか この法律が施行されて、まだ1ヶ月ですが、女性の皆さんは、この法律をどのように感じているでしょうか？まず、やりがいが出てきたとか、又は、そんな名前の法律なんて聞いたことがないわ、と思っっているでしょうか？では簡単に、一部だけでも説明すると、募集及び採用について、女子に対して男子と均等な機会を与える。又、事業主は労働者の配置及び昇進についても男女平等に取扱うこと、又、新入社員、役職者等の教育訓練についても、女子も男子と同じように、受けさせること、等です。つまり、女子労働者の福祉の増進と地位の向上を図り母性を尊重されつつしかも性別により差別されることなくその能力を有効に發揮して充実した職業生活を営み、職業生活と家庭生活との調和を図ることが出来るようにする。そして、女子労働者は、労働に従事する者としての自覚の下に、自ら進んで、その能力の開発及び向上を図り、これを職業生活において發揮するよう努めなければならない。・・・という内容のものであります。ですから働きがいがあると同時に又、今までのように、女だからという甘えは、一切通用しない、さびしい一面も含まれております。このように男子も女子も企業において、同等の立場にたてられたんです。今までの能力は、人材の宝庫としてこれからの企業が、大いに生かしていきたいと考えております。特に中小企業の中において、この女性の能力を、即、戦力として生かしていきたいと思っております。この法律で裏付けされた保障を源として、会社に役立ち、周りの人達にも信頼される人間を目標として、さあ女性の皆さんこれから大いに、頑張ります。

新人紹介



伊東郁二



伊藤ちはる



吉岡考記
四月一日に森松に入社し二週間が過ぎました。私にとっては、二つ目の会社になります。前の会社に不満がなかったと言えは嘘になりませんが、森松を見て、聞いて、話しては内にもう一度人生をやり直して見たくありません。まだまだ半人前でありまして、毎日が勉強、勉強ですが、一日も早く一人前の森松マンと呼ばれるように頑張りたいと思います。

「有り難し」(そうあることが) 伊東郁二
ない。世にまれだ。珍しい。
面接の時に、部長にいわれた言葉です。
縁あって、このたび、森松株式会社にお世話になることになりました。

見ること、聞くこと、すべてが新しいことばかりで何もわかりません。社長を始め、先輩の方々の良きご指導により、一日も早く会社のために役立つ人間をめざして、がんばりたいと思います。よろしくお願ひします。

伊藤ちはる
この四月に森松(株)に入社した、伊藤ちはるです。まず自己PRから、昭和四十年七月三十日生まれの子です。専門学校を三月に卒業しました。趣味は、ドライブで車に乗る事が、好きです。まだまだ学生気分を抜けきれない点がありますので気がついていたらびっしり注意して下さい。わからない事が、ひとりずつひたひたの仕事を確実にこなせる様にはりきって頑張りますので、よろしくお願ひします。

「明日を担うフレッシュマンの集い」に参加して

吉岡考記

今日、一年一昔と言われるぐらいに世の中の変化の激しい時代である。この時代に生き残るのは非常に困難な時代があるが逆に言えば、やりがいのある時代ではないだろうか。それは、自分たち自身で変えていくことができるからです。私たちには、お金で買うことのできる若さと時間がまだまだ多く残っているからです。しかし、この時間をどのように生かすか殺すかによって自分の人生が決まってくると思ひます。それでは何をしたらよいのでしょうか。私は、まず人生計画(目標)を立てることが必要ではないだろうか。そして、この計画(目標)に対して、一歩でも二歩でも近づけるように、コツコツ努力していくことが一番大事なことではないだろうかと言うことをこの研修に参加して学んだように思ひました。まだまだこれから長い人生ですがまだまだ勉強することが沢山あるように思ひました。今日からまた新たな気持ちで人生の第一歩を歩み出したいと思ひます。そして、謙田先生が言われた「人に聞くよりいい知恵はない」と言う言葉を気持よく心に、人間関係を大切に、人のように頑張りたいと思ひます。このことを一日も長く持続出来るようにして行きたいと思います。

伊東郁二
最近の若者は、大企業離れをしているようです。その理由として、中小企業ならば、自分の仕事が、即、会社の実績として現れるからです。これからは「仕事のプロ」になるわけです。プロになる条件として、フレッシュマンは目標・目的をもち、計画的にやる。毎日同じことを最低十五〜三十分やり続ける。その持続力により、不得意なことを征服し、アルパイトとは人味違うプロになれるのである。僕たち新入社員は、若金・時間・積んでも、いくら会社社長であっても、決して手に入れることは出来ない。これからの財産をふるに活用し、「会社三十年説」といわれている大きな壁を打ち砕かねばならない存在なのです。三十年説では、「最初の十年で成長し、次の十年で進歩がなく、三十年目で倒産を向かえる」という説だそうです。だから、会社はいつまでも同じ仕事を続けていてはいけません。その同じ仕事をフレッシュな新入社員が自覚し、フレッシュな目線で会社にアイデアを提供する。それによって、「三十年説」はこわれるのである。

伊藤千治
「明日を担うフレッシュマンの集い」に参加し、講師の謙田先生の講演を聞いて、大企業より、中小企業の方が将来性がある、という事ではありませんが、大企業に入ると余り変化のない毎日を送るよりも、将来性のある中小企業に入り、自分自身の持つ能力、仕事に対する意欲を養い、毎日がバリバリと充実した日々を送る、という事でした。学生と社会人としても「お金」に対しての意味が大きく違ってくる事も、教わりました。ミス一つに自分だけでなく、会社全体のミスにつながるという事も感じました。私自身「責任」という言葉も改めて思ひ直しました。まだまだ社会というものを、私自身身にかけていません。勉強しなければならぬ事が山程あります。駄目だ、今迄とは違ういい加減な事は、つげられました。講演と同時に、てんびんの時、という映画も見ました。商品を売り、そしてその商品が人の手に渡る。つまり商売とは！という事ですが、登場する少年は、白紙の状態で行商を出してその少年の周りの人々が社員であり、そしてその少年の周りの人々が私達の上司の方々、先輩方であると思ひました。商売とは、売り手と買い手が一つにならなくては、成り立たないという事が印象に残りました。必要なものは必要と、必要としないものは必要としない、売買とは、同情や思で成り立つものではない、売り手の側が真意で真剣に買ひ手の側の気持ちを考え、接していかねばなりません。私は、我、森松株式会社のために、わずかも、一つ一つ責任を持って、確実にこなしていこうと決意しました。我社のモットーの一つである「今・ここ・私」を常に頭において、森松の一員として頑張りたいと思ひます。

一つのことをやっていけば三十年でダメになる。だから、アイデアを出し、どんどん会社の色をつけるのが、僕達の役目だと思ひます。我々は今年、三十周年だそうです。話をきいてみれば、一つだけの仕事の仕事ではなく、頑張ってきた三十年の間は、僕ら新入社員にとつて、大きな時代と思ひます。とにかく、頑張るしかないのです。その分「時は生命……」

今月の社内行事

二日〜七日
慰安旅行

十日 営業・事務・合同連絡会議
午前九時〜九時半

十七日 英会話教室 午後四時から
テニス同好会
午後五時〜午後八時半

十八日 野球部 今シーズン初試合
場所 赤坪公園
時間 午前八時半集合
対戦相手 西武運輸

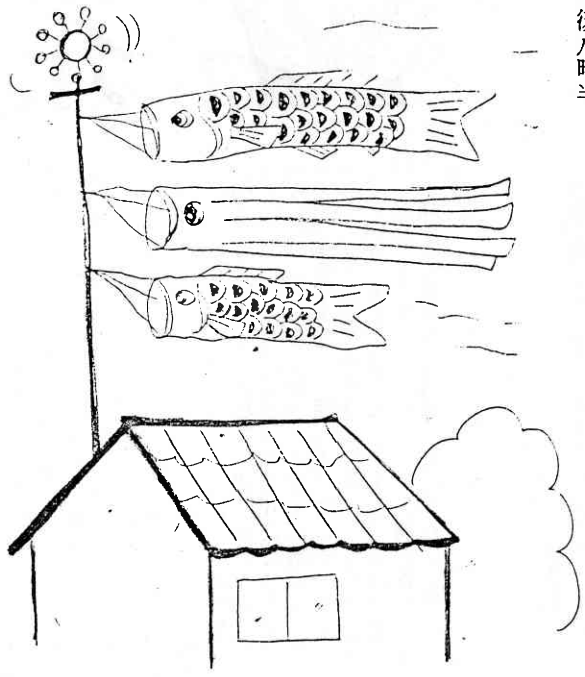
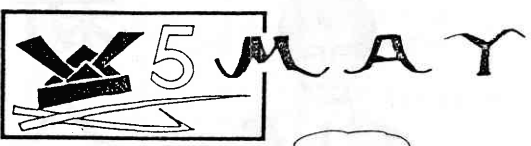
二四日 英会話教室 午後四時から
テニス同好会
午後五時〜午後八時半

三一日 英会話教室 午後四時から
テニス同好会
午後五時〜午後八時半

まじしころクッキー

ハビビンバ
材料(4人分) 岩間敬子
牛こま・200g 砂糖300g まめもやし
たまご・4個 ほうれんそう・1わ〜2わ
作り方

- ①牛こまをつけ汁(砂糖大さじ4、しょうゆ大さじ8、んにく、しょうが、ごま油、ねぎ、白ごま、好きな人は赤とうがらし)につけこんでおく。
- ②豆もやしは、3分ぐらいゆで、ザルにあげあついうちに、みりん、調味料、ごま油、食塩で味つけする。(七味もやし、味つけもやしならそのままOK)
- ③ほうれんそうは、サツとゆで、ぎゅっとしぼって水けを切り、適当に切ったら、炒めて塩で、味つけする。
- ④たまごは、うすく焼き、千切りにする。
- ⑤牛こまを炒めて、どんぶりに御飯を盛ったら、色どりよく御飯の上に並べる。牛こまを炒めたつけ汁を少し御飯にかけてもよい。



お知らせ

御誕生おめでとうございます

山口係長に二人目のお子さんが生まれました。
四月二十三日 十六時〇〇分
御両親の望みどおりの女の子誕生
名前は山口文香(あやか)
素直で教養が身に付いた女性になります様にとの願いを込めて付けられたそうです。
一男一女のパバになり幸せいっぱい
この顔も一緒に載せたいくらいです。

お誕生日切箱紹介

五月生まれの人

- 社内 時見賢一郎 昭和四〇年五月十一日
- 橋本正子 昭和二〇年五月十八日
- 家族 牧野圭祐 昭和五九年五月二八日

編集後記

井上美加
屋根より高いこいのぼり
五月五日は子供の日、私にとってはもう戻ってこない日であります。五才の頃、母に「私はどうして女の子なの？男の子に生まれていればあの大きなこいのぼりがあったのに！」と泣いた事があります。私にも可愛い時があったのです。私事も、盛り沢山な話題を記載しましたが、如何がでしょうか？編集部一同が頭を悩ませながら毎月の新聞を発行して頂けたでしょうか。今月はフレッシュマンの三名が自らがペンを取り、記事を書きました。皆様、どうぞこの三名を温かく見守って下さいます様お願い致します。私達先輩社員も、フレッシュマンに負けないように頑張っています。そして編集部一同も、より一層皆様に楽しんで頂けるように頑張ります。よろしくお願いします。

編集発行者
森松株式会社
発行責任者
牧野光昌
昭和61年5月1日
第11号